

ヘルモノカ、ト言フタ由

東條

三國同盟ノ時モ同シ筆法タツタ、七十何四モヤツテ出来
ナカツタモノカ及川カ大臣ニナツテカラ直ク出来タ、之
ニ關シ某氏ハ次ノ様ニ言フタ由「及川ハ國內問題トシテ
三國同盟ハツクルカヨイト思フタカラ、ツクツタノタト言
フテ居ルトノ事タカ無責任ナコトタ」

東條

十一月一日(土)午前七時半ヨリ約一時間

東條陸相ト杉山總長トノ會談要旨

「本日ハ結論トシテ

第一案 戰爭セス、臥薪嘗膽ス

第二案 直ニ開戰ヲ決意シテ作戰準備ヲグングン進メ、外交ヲ從

トスルモノ

第三案 戰爭決意ノ下ニ作戰準備ヲススメルカ外交交渉ハアノ最

小限度ニテ之ヲ進メル

ノ三案ニ就テ研究スルカ總理トシテハ第三案ヲ採リ度イト思フ
三關係各大臣ト會談センカ一番問題トナツタノハ、鐵テ海相ハ次ノ
如ク主張セリ

來年度ハ四三〇万屯シカナイ、其中海軍八五、陸軍ハ八一、殘余
民需ト予定シテ居リシトコロ海軍八十六年一三五万屯一七年一四
五 一八一二〇年各一三三八万屯ヲ要ス十七年一三五万屯ハ一
一〇万屯迄ハ壓縮テキルカ此增加分ハ陸軍ヨリ出サレ度、尙海軍
ハ此外ニ特種鋼一八万屯民需ヨリ若干、陸軍ヨリ八万屯海軍ニ譲
ルコトトシ、海軍ハ一〇二万屯ニテ我慢出來スカ研究セラレ度イ

ト述ヘタリ

(右ノ如ク海軍ノ鐵其他物ニ對スル主張ハ突如最近ニナリテ強キ
モノアリ其眞意ハ奈邊ニアリヤ疑ハサルヲ得ス
大量ノ物ヲ海軍ノ希望通り取得シ得ストシテ非戰ノ責ヲ國力即
政府ニ歸セシメントスルカ或ハ陸軍カ開戰ヲ愈ク此機會ニ海軍
用物資鐵ヲ奪取スル如ク容認セシメントスルカノ何レトスルモ
海軍アリテ國家アルヲ知ラサルモノト言ハサルヲ得ス若シ釋明
ノ如ク政府ニ海軍ノ必要ノ重大性ヲ認識セシメムトスルナレハ
大決心ノ直前ニ之ヲ提出セルハ不可ナリ)

東條 各大臣ノ案ニ對スル意見左ノ如シ

海軍、大蔵、企總、トモニ第三案、外務ハ判然セス オ上

ノ御心ヲ考ヘネハナラス日露戰爭ヨリモ^送難カニ大ナル戰爭

ナルカ故ニ御診念ノコトハ十分ニ拜察出來ル

又 オ上ハ正^尺堂々ヤルコトヲ好ミニナルコトモ考ヘル

ト、今開戰決意シ其後偶爾外交ヲヤルコトハ、御関キ届ケ

ニナラスト思フ

然シ此案ヲ統帥部トシテ成功セシメル自信アルナラヤラレ

テモヨロシイ

杉山 統帥部ノ考ヘハ軍務課長ヨリ通シタ通りテス

東條 右ヲ通ス自信ハアリマスカ

杉山 然シ今日第三案ヲ進ムト言フコトハ九月六日ノ御前會議又

モ一度繰リ返スコトニナルニアラスヤ

東條 之トハ戰爭準備ヲ進メルト言フ點ニ於テ差異カアル

杉山 若シ外交ウマクユケハ準備シタ兵ヲ下ケルコトトナルカ之

ハ困ル、内地カラ二〇万支那カラモヤルヘキ作戰ヲヤメテ

兵ヲ送ツテオル、兵ヲ南洋迄出シテ戰爭シナイテ退ケタラ

士氣ニ關ス、統帥部トシテハ(1)國交調整ハ斷念スル(2)戰

争決意ヲスル、(ハ)戦争發起ハ十二月初旬トス(ニ)作戰準備ヲ
スル(ハ)外交ハ戦争有利ニナル様ニ行フ」ヲ主張シ度イト思
フ

東條 統帥部ノ主張ハ止メハシナイカ、オ上ニ御納得シテイタ
タクノニハ容易テナイト思フ、

杉山 オ上ニ御納得ヲ願フコトノ困難ハ知ツテ居ル

第三案ハ萬已ムナイ時ニヤルモノタト考ヘル

東條 オ上ハオキキニナラヌト思フ

杉山 對策交渉ノ時ノ最後要求ハ之以上低下スルコトハナイカ

東條 之ハ低下スルコトハナイ軍及國民ハ承知シナイ

尙本日ハ大義名分ニ就テモ研究シタイ思フテ居ル